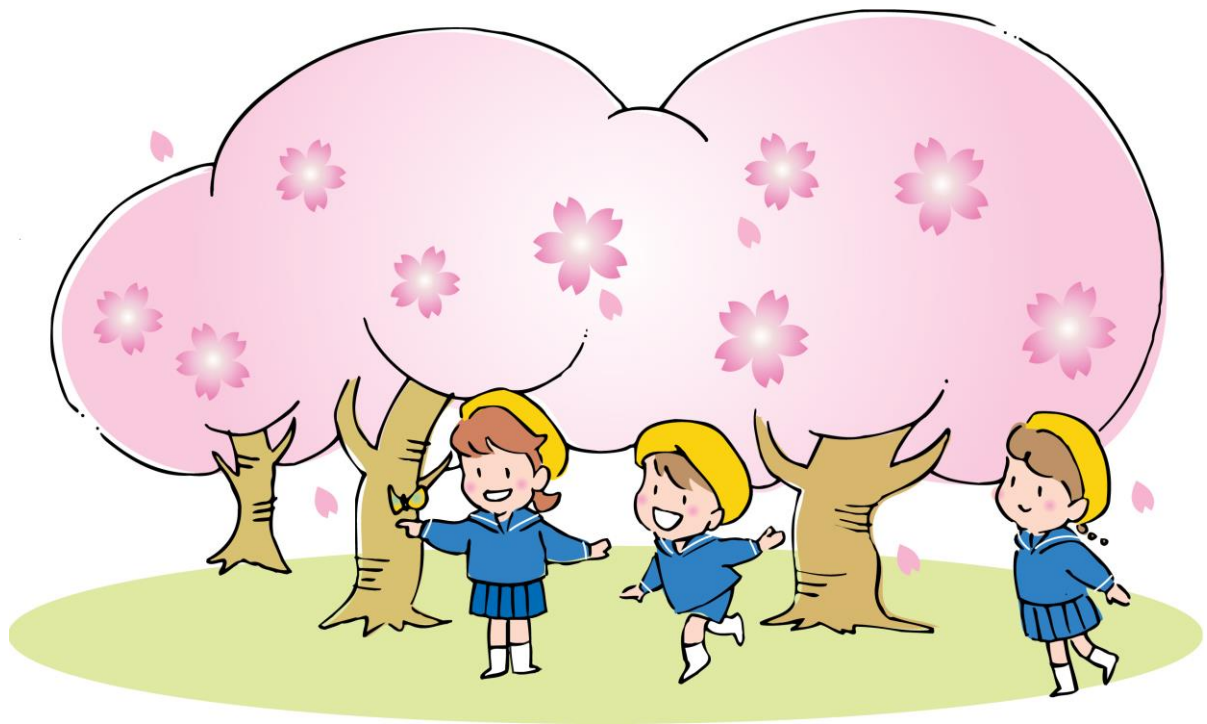


事業報告書

令和3年度

令和3年4月 1日より
令和4年3月31日まで



学校法人 常盤学園

事業計画書

令和3年度

法人の概要 常盤学園

①名称：学校法人 常盤学園

②所在地等：奈良県橿原市常盤町332番地の5

電話番号：0744-29-1020

FAX：0744-22-7828

③設置する学校：常盤幼稚園

定員：300名 実員：112名

④役員の状況

理事長：吉川 隆博

理事：6名 監事：2名 評議員：13名

⑤教職員の状況

園長：1名 副園長：1名 教員：8名

職員：2名 園医：2名

保育時間・保育時間等 (常盤幼稚園)

月曜～金曜：午前10時～午後2時（お迎えは3時まで）

第1・3・5土曜：午前10時～11時（お迎えは12時まで）

第2・4土曜：休園

給食：月曜～土曜 牛乳・味噌汁・米飯の弁当給食を実施

◇園内の調理施設で、産地の明確な食材を使用し安心・安全な給食を提供します。

保育料（給食・教材費・施設設備費を含む）

4・5歳児 35,000円/月

3歳児 36,000円/月

園バス維持費：4,500円/月 但し、8月を除く

④入園時の費用

入園料：30,000円 教育充実費：20,000円（4歳児：10,000円）

事業の概要

教育理念

* 進んで挨拶できる子どもに育てよう

挨拶は心の窓と言われます。「おはよう」「さようなら」からはじまり「ありがとう」「ごめんなさい」、これらの言葉は人との距離を近くする言葉です。自分の思いを人に伝え、人のことを思いやる気持ちを育てます。

* しっかり食べられる子どもに育てよう

辛酸甘苦味、そして第5の味と言われる旨味は、味覚だけでなく心を育てます。食育を通してたくましい体と、落ち着いて考えられる心を育てます。

* 人間関係がつかれる子どもに育てよう

ものは分け合うということ、ものには順番があるということ、遊びや生活の場を通して、子どもたちは学んでいきます。時には順番やおもちゃの貸し借りでぶつかり合うこともあるでしょう。仲直りしたときの嬉しい気持ち、順番やものの貸し借りがうまくいかない悔しい気持ちを経験することで、どうしたら友だちと仲良く遊ぶことができるのかを工夫するようになっていきます。その経験が人の気持ちを考えることにもつながります。先生はその仲立ちとなれるようきめ細やかに見守ります。

この3点を基本として、様々な体験や遊びを取り入れながら健やかに成長できるよう取り組みます。そして様々な遊びや体験を通してからだの軸（体幹）を育み、人と関わる力をそだてます。

3年度の主な事業

- 4月 入園式 始業式 避難訓練（以降毎月実施）
- 5月 健康診断
- 6月 遠足
- 7月 七夕 吉野山林間活動 夏祭り 終業式
- 8月 夏休み お楽しみ会
- 9月 始業式 運動会
- 10月 お月見会 遠足
- 11月 歯科検診 七五三詣り どんぐり拾い 作品展
- 12月 クリスマス会 終業式 冬休み
- 1月 個人懇談
- 2月 節分会 発表会
- 3月 ひな祭り お別れ会 卒園式 終了式 春休み

その他の主な事業の目的・計画

「10の力」の育成

保育要領に5歳児の終わりまでに育ててほしい「10の力」として下記の事項が挙げられています。

- 1、健康な心と体
- 2、自立心
- 3、共同性
- 4、道徳性。規範意識の芽生え
- 5、社会生活との関わり
- 6、思考力の芽生え
- 7、自然との関わり・生命尊重
- 8、数量・図形、文字等への関心・感覚
- 9、言葉による伝え合い
- 10、豊かな感性と表現

個々の遊びや活動がいずれの領域に関わるのかを考えながら、子ども一人ひとりの成長の様子を、小学校により細かに伝えられるよう工夫しました。保護者にも写真やコメントで日々の活動を綴ったドキュメンテーションを活用し、園での様子をより詳しくお知らせできるよう努めました。

安全性を高める環境づくり

今年度も新型コロナウイルス感染症予防に努めました。手洗場の水道栓をすべて自動止水タイプに変更したことに加え、保育室、トイレ、おもちゃ机等の備品、送迎バスに抗菌コーティング（ナノゾーンコート施工）を実施しました。

実施後1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月に衛生検査を実施しましたが、3回とも良好な衛生状態であることを確認することができました。

園内の消毒を徹底するとともに、予防に関する情報を保護者と共有し、連携を取って感染予防に努めました。

毎年3月11日には東日本大震災の出来事を伝えようと地震を想定した避難に加えて水害を想定した垂直避難も実施しています。

また遊具専門業者による遊具点検、建築士や専門技師による建物調査、消防設備点検も行い、消火器等消耗備品の入れ替えも行いました。

インシデントの除去

日々の遊びや活動の中に危険につながる要因・インシデントがチェックできるよう、日常的にヒヤリハット報告を励行してきました。

週末には提出された報告から選定した3つのヒヤリ事項を全員に配布し、次週の重点項目として共有しました。

また重要な報告、数多くの報告を出した職員に対して、月一回の表彰を行い、意識の向上と職員全体の危機感への感性を育てました。

保育力の向上と情報の共有（研修で職員のスキルアップ）

経験を積んだ保育士からの指導助言による園内研修に加え、外部研修にも積極的に参加して保育力の向上を目指します。

子どもたちとの生活においては「前向きな声かけ」を大切にし、方向性を示す肯定的な言葉がけの上に保育活動を進めます。

また保護者とのコミュニケーション力を高められるよう、相手に自分の考えが伝えられるよう「簡潔に・わかりやすく話す」トレーニングも行いました。

臨床心理士や支援センターとの連携

榎原市支援センターの指導員、臨床心理士の先生と連携し、各学期に園に来て頂き、子どもたちの成長について話し合いました。

子どもたちそれぞれの個性などにあわせて計画や目標を立て、学期ごとに振り返りの時間をとりました。

また保護者と話し合う場を多く持ち、情報の共通につとめました。

信頼の絆が結べるよう、保護者とゆっくり話す時間を大切にしました。

設備の充実

幼稚園舎のガラスはすべて飛散防止フィルム加工をしています。

経年劣化したフィルムの張替え工事を5カ年計画で実施の予定です。

今年度は2クラスに遮熱、紫外線カットの高機能飛散防止フィルムを施工しました。